

第40回 日本伝統漆芸展

JAPAN TRADITIONAL Urushi Works EXHIBITION 2023

常設展示室 1

2023年 3月11日(土) - 3月26日(日)



水谷内修《沈金箱「開關」》
文部科学大臣賞



奥井美奈《乾漆箱「滴り」》
東京都教育委員会賞



田中義光《蒔絵箱「優しい風」》
朝日新聞社賞



清水康志《乾漆合子「花ひらく」》
日本伝統漆芸展第40回記念賞



塚田美里《沈金箱「冬萌」》
奨励賞 会津若松市長賞



馬莉《乾漆螺鈿蒔絵飾箱「夏華」》
日本伝統漆芸展新人賞



山下義人《さとやま蒔醬四方盆》
重要無形文化財「蒔醬」保持者



大谷早人《藍胎蒔醬茶器「暮れなぞむ」》
重要無形文化財「蒔醬」保持者

日本を代表する工芸として、永い歴史をもつ漆芸。日本伝統漆芸展は、伝統の継承と現代生活への応用を目指し、日本伝統工芸展の漆芸部会展として開かれています。第40回となる本展は、東京・輪島・高松・広島・会津若松の5会場を巡回し、受賞作9点を含む入選作品全94点を展示いたします。また第40回を迎えたことを記念し、伝統漆芸展を支えた重要無形文化財保持者(人間国宝)を紹介しこれまでの伝統漆芸展のあゆみを振り返ります。

重鎮から新進まで漆工芸への飽くなき挑戦がうかがわれる本展覧会は、後継者育成に大きな貢献を果たしています。各地の伝統が育んだ地域性をも展望することができるまたとない機会です。本展が見せる磨き抜かれた技と美への探求と共に、常設展示室2で開催されている高松市美術館のコレクションによる「讃岐漆芸の美 —アムステルダム国立美術館漆芸展出品作品を中心に—」も併せて鑑賞いただき、漆芸の魅力をお楽しみください。

列品解説

会期中、展示室内において下記出品者による展示作品の解説を行います。※観覧料要

3/11(土) 13:00~

石原雅員 (本展出品作家)

3/18(土) 14:30~

藪内江美 (本展出品作家)

同時開催 / 常設展示室 2

2022年度 コレクション展 4

讃岐漆芸の美

—アムステルダム国立美術館漆芸展出品作品を中心に—

今夏、アムステルダム国立美術館で開催された「Breaking out of Tradition (伝統からの脱却)」をテーマにした「Modern Japanese Lacquer (近代日本の漆芸)」展に、アメリカ、オランダ、スイス、ドイツの美術館や個人のコレクションとともに高松市美術館のコレクションから6点が出品されました。明治維新後、漆芸家たちは近代的なアイデンティティと表現方法を求めて、新しい技法を見出したり、モチーフや扱う素材に独自性を持たせたり、と様々な挑戦を行いました。磯井如真や音丸耕堂といったその時代を生きた讃岐漆芸の作家たちも、新しい顔料や技法、意匠を積極的に取り入れました。そして、彼らの多彩な

表現と精緻な技術は、現代にも受け継がれています。

本展では、「Modern Japanese Lacquer」展に出品された、石井啓堂《狭貫彫堆黒 香卓》や音丸耕堂《堆朱板文庫 昆虫之圖》、《彫漆椿文手箱》、磯井如真《堆朱 柿香盒》のほか、出品された作品とは異なる技法や意匠に挑戦した彼らの作品や、讃岐漆芸の祖である玉椿象谷の作品も併せて展示いたします。

讃岐漆芸の精緻な彫りと豊かな色彩、そしてそれぞれの作家たちの個性溢れる表現を高松市美術館のコレクションを通してお楽しみください。



【交通のご案内】

- ◎ JR 四国：高松駅下車、南へ徒歩約15分
- ◎ ことでん：瓦町駅、片原町駅下車、徒歩約10分
- ◎ バス路線：(ショッピング・レインボー循環バス) 紺屋町バス停下車、徒歩約2分
(まちバス) 丸亀町参番街下車、徒歩約3分
(高連バス) 県庁通り下車、徒歩約8分
- ◎ 駐車場：美術館地下に公営駐車場(有料、乗用車約144台収容)
- 内容・日程が変更になる場合があります。その際はHP等でお知らせします。
- 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策へのご協力をお願いします。